

# 公開授業だより

平成29年2月2日（木） NO. 2

## ～アクティブラーニングを取り入れての授業改善～

本日のT先生の研究授業（授業公開）は驚きの1時間でした。『舞姫』（生徒自身に表現を求める国語表現の授業には、文語的で難しい教材）を通読させて活発な意見交換に生徒全員を巻き込むというもので、まさに主体的で協働的な学習活動という授業でした。

2月2日（木）6限 国語表現（2年次選択） 担当 T先生

- 授業の流れ
  - ・森鷗外作『舞姫』を通読（2時間）
  - ・個人で主人公の人となり进行考察（1時間）
  - ・グループワーク・ディスカッションを通じて主人公の人进行考察（本時）

### ■授業のねらい

同時期に活躍した文豪・夏目漱石の『こころ』（現代文B①で既習）も参考にしながら、明治期のインテリに共通するものの見方や考え方に対する理解を深め、グループワークやディスカッションを通じて視野を広げることを目的とする。



### ●どんな教材

森鷗外『舞姫』は作者初期の代表作であり、自身のドイツ留学に基づいて書かれたもの。近代文学作品でありながら文語体（古文のような文章）で書かれているため、生徒にとっては少々難解な小説である。現代文の授業ではついつい“スルー”しがちな作品である。内容は、西洋の自由な空気に触れた主人公「豊太郎」が自我に目覚め、やがて立身出世のために恋人「エリス」を捨てるという、当時の時代背景も絡めて青年の苦悩を描いた作品である。今回は「豊太郎」という人物に焦点を当てて“良い人” or “悪い人”を考察させていた。はたから見るとわかりやすいテーマで簡単なようだが、実は奥深い内容の教材ということである。

### <授業者より>

授業の見通しの甘さを感じました。授業の最後にディスカッションを通してのまとめを5分程度入れようと思っていたのですが、想定以上に生徒が活発に意見を出していたので、議論を中断させたくなくて「まとめ・振り返り」の時間を取れなくなりました。次回がこの教材の最後の授業（予定）です。最終的には、生徒に立場や視点を変えることで『舞姫』の主人公が「良い人」でも「悪い人」でもあり、人間が多面的な存在であることに気づかせたい、そして明治期の知識階級のもの見方が現代人とどう違い、どう同じかを考えさせたい、と思っています。「対話する」ことで学びを本当に深くできるのか、またどのように評価していくのか、まだまだ試行錯誤を重ねていく段階です。

## <見学者の感想より>

### ①授業全体 生徒全員が元気に自分の考えを述べ、発言しようという雰囲気であった。

- ・考えをまとめるプリントを上手に使っていた。意見や考えを上手にリードして展開していた。
- ・「舞姫」は“正調 現代文授業”では、なかなか「豊太郎の人柄」だけにテーマに絞ってできないので面白かった。生徒がどんどん発言して驚いた。あんなに生徒が発言する授業はあまり見たことがない。
- ・大勢を相手の一斉授業と違い、少数のゼミ形式の取組で生徒の自主性を育む良い授業であった。
- ・豊太郎はいい人か、悪い人か意見に分かれて、自分たちの言い分を討論していたが、読んで、人物の立場で、自分の意見をまとめる難しさを再確認したと同時に、このような機会を持つことの大切さを実感した。

### ②生徒の学習活動 アクティブラーニングの授業にふさわしく、生徒がいい表情で意見を発表した。

- ・自由な雰囲気を醸し出し、生徒が発刺としていた。私の授業とは正反対であった。
- ・主体的な読みができていたと感じた。生徒は自分の考えをはっきり発表し、まだ意見を言っていない生徒には、先生がうまく意見を促していた。
- ・意見に分かれて席を分けることで話し合いを活発化させていたのは参考になった。

### ③教師の役割 生徒の発言に応じて授業を展開していた

- ・生徒が意見を活発に言い合うように仕向ける言葉を、ところどころで入れていくのが印象的であった。・生徒に対して答えをさし示さず、相槌を打ちながら生徒の論を導いていた。
- ・普段から生徒とのコミュニケーションが図れていることが伺われ、特に発言をしり込みする生徒から 発言を引き出す声かけが見事であった。
- ・意見を変えたい人の席について、意見を反映し途中での席移動も可と変更した。生徒のおもいが反映され、生徒が意見を発表しやすい環境を作られていた。



### ④改善に向けて

- ・“悪い人”グループの人数が多く、2つに分けてグループ内で意見や考えを述べやすくすることもできたのでは。また、机を併せ顔と顔を向き合わせ話し合う方が、消極的な生徒も発言しやすいのでは。
- ・さまざまな意見や考えが出たあとで、最後に「まとめシート」や「100字まとめ」などを書かせ、自分の考えを整理させたらよかった。その「まとめ」はこの時間の「評価」に活用できる。
- ・凶らずも生徒が指摘したように、「いい人」「悪い人」と単純に分けるのは無理があるかも。人間の多面性について今後発展させていくとおもしろいかもしれない。
- ・発表させた後、簡単に板書していくと議論の経過がはっきりしていいかもしれない。

今日の授業のように全員の生徒が目を輝かせて学んでいる姿をみると、「生徒同士の話し合い」さえ盛り込めばアクティブラーニング型授業であるという誤解もなくなるでしょう。「主体的・協働的な学び」がどのようなものなのかが具体的にイメージできる授業でした。でも、日頃のしつけは？、考查問題は？、模試や入試への対応は？、評価は？、自分にも可能？等々、当たり前のようにアクティブラーニング型の授業を実践するまでにはクリアしなければいけない課題が多くある事も実感しました。（教頭）